

図1 本震付近の余震分布図 (2003年10月1日? 20日)  
 灰色の丸が震源位置であり、丸の大きさはマグニチュードの大きさをあらわす。逆三角形と四角が、それぞれ自己浮上式海底地震計と海洋開発研究機構のケーブル式海底地震計の位置である。(a)震央分布図。破線は遠地実体波による本震のすべり量[Yamanaka and Kikuchi (2003)]である。(b),(c)はそれぞれ東西方向、および南北方向の深さ断面図である。

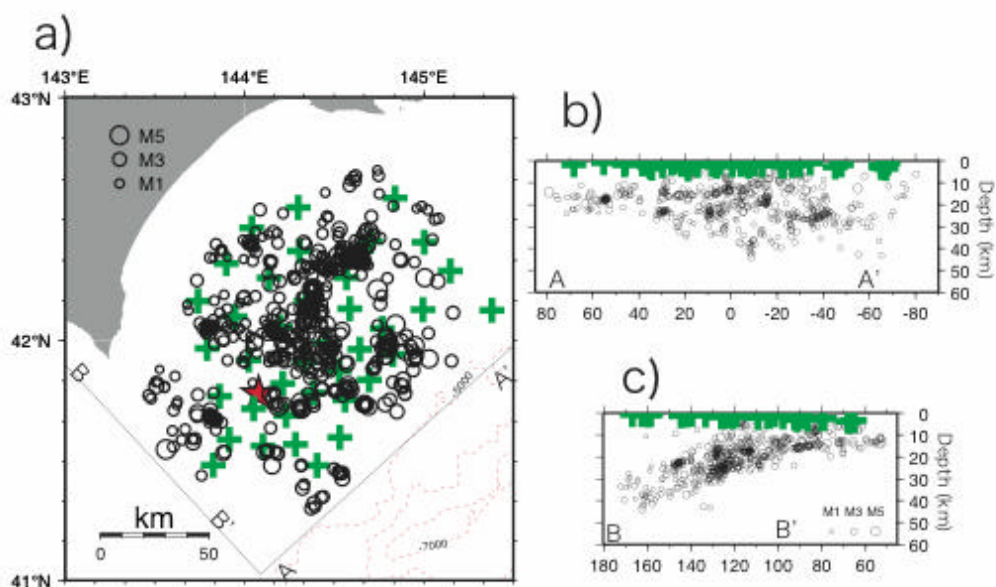


図2 震源分布図 (2003年10月1日? 11月20日)  
 +印が海底地震計、○が震源位置であらわす。○の半径の大きさは、マグニチュードをあらわす。a) 震央分布図 b) 海溝軸平行方向の深さ断面図 c) 海溝軸直交方向の深さ断面図

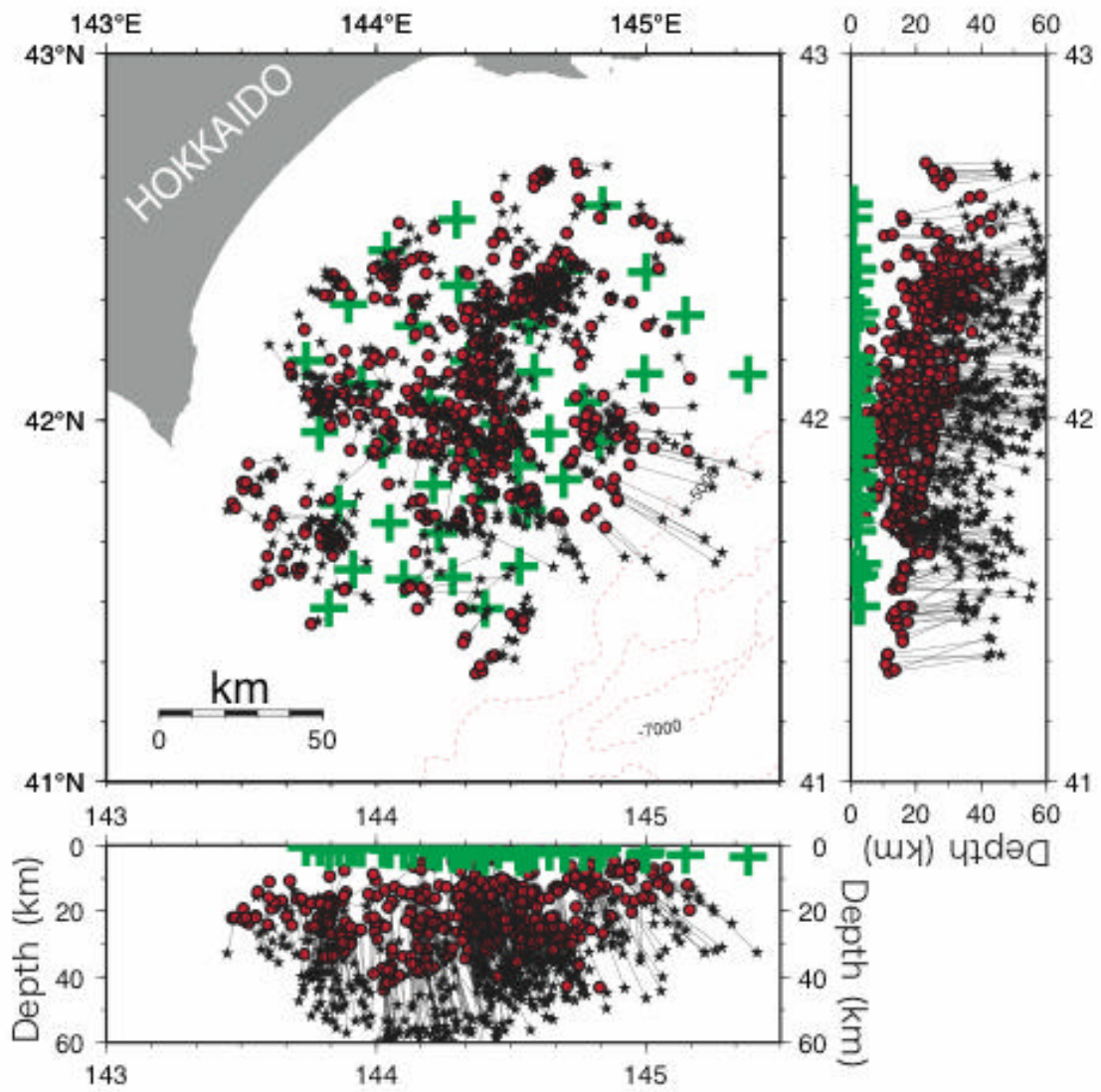


図3 本調査研究による震源（赤丸）と気象庁震源（星印）との比較  
四角は海底地震計の位置をあらわす。

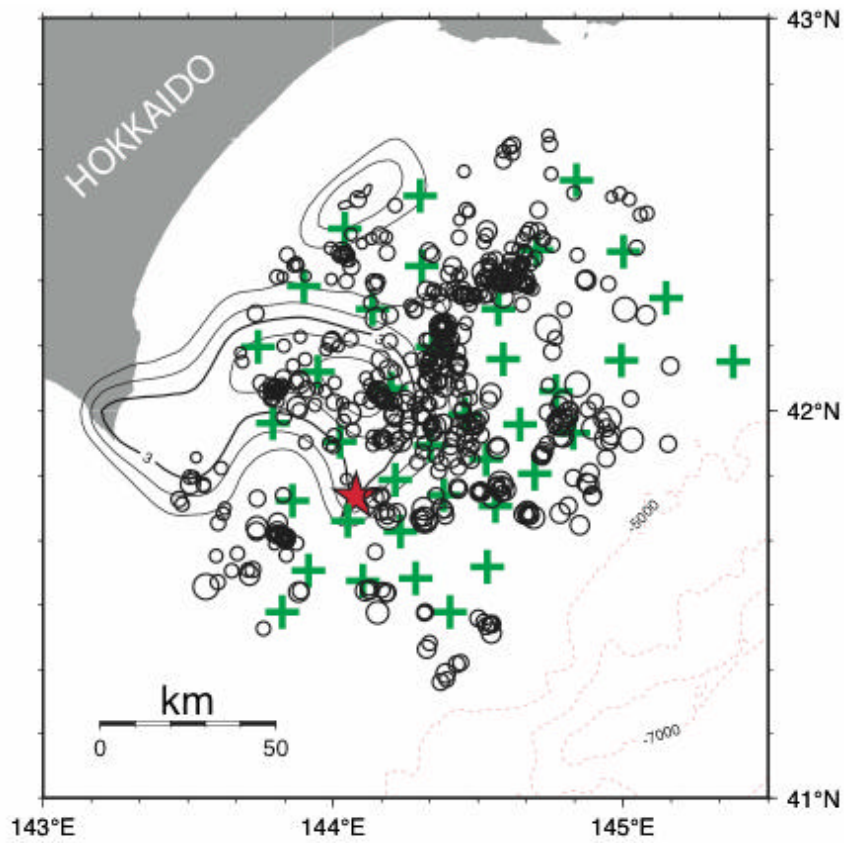


図4 本調査研究による余震分布と遠地実体波を用いた解析による本震時のすべり量分布 [Yamanaka and Kikuchi (2003)] との比較

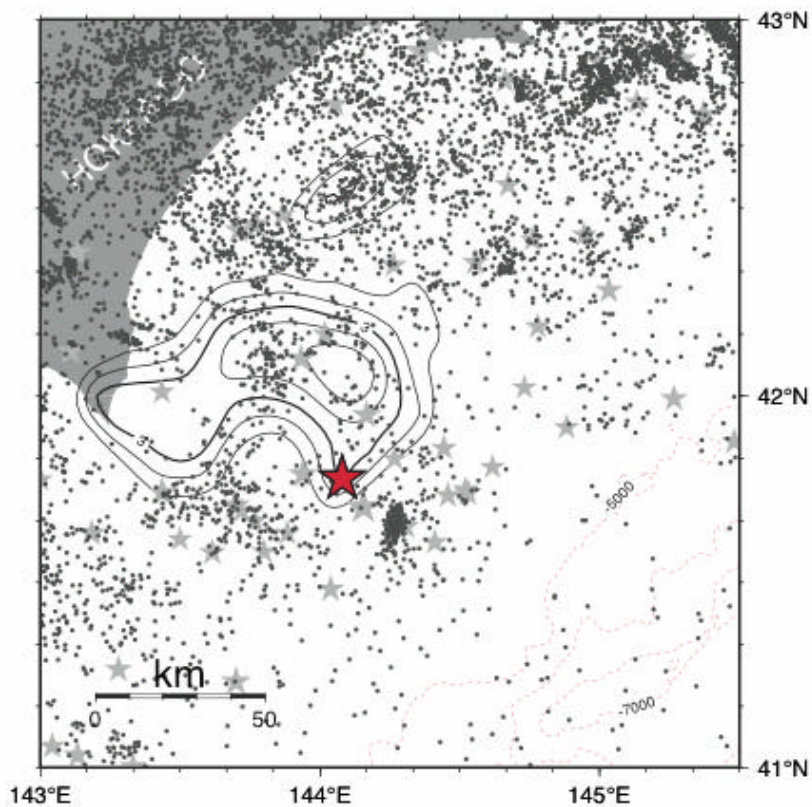


図5 本震前の気象庁による震源分布(1997年10月? 2003年8月) 星印は1924年以降に発生した地震の震央、コンターは Yamanaka and Kikuchi (2003) による本震時のすべり量をあらわす。